

# Akatake Times

今年は日本各地で観測史上最高となる6月の暑さでした。  
梅雨もあつという間に明けてしまいましたね。  
様々なメディアで節電、節水と騒がれている今日この頃ですが  
倒れてしまっては元も子もありません。  
必要なエネルギーはしっかり使い、体調を管理しましょう。



『吉原祇園祭』

6月11日・12日の2日間、富士市の吉原で3年ぶりとなる「祇園祭」が開催されました。疫病退散を祈り江戸時代から行われているお祭りで、地元では「おてんのうさん」の愛称で親しまれています。  
写真は山車(だし)を引いている様子です。(夜の方がライトアップされて映えます)  
東海道の旧吉原宿は東西文化の交流点で、江戸型山車・吉原雛壇型山車・舞台屋台など全国でも珍しい21台もの山車や屋台が街を練り歩きます。  
例年では、吉原商店街の歩道に200軒以上の露店が立ち並び、車道には山車という迫力満点な光景が見られますが、今年は規模縮小で露店は公園に集約されてしまい、少し寂しかったです。早くかつての光景が見られるよう、私も疫病退散を祈りました。

撮影日:2022年6月12日 撮影者:植野さん

➤ロシアがウクライナに2月24日軍事侵攻いまだ止まず、新型コロナ感染第7波到来か、6月の歴史的暑さ・・・の中で7月を迎えました。第51期もあと2か月となりました。おかげさまで期末の着地も崩れることなく良い点数がとれそうです。次の50年に向けて幸先の良いスタートというところでしょうか。私が当社に入社したのは第6期の1976年9月、27歳の時でした。食うや食わずの会社の経営状態でしたが、少人数で明日のために皆頑張っていた時代です。安定してきた今を思うとき隔世の感があります。ありがたいことです。

➤故郷・小笠町(現菊川市)に暮らしていたのは高校の18歳まででしたから、故郷を離れ55年。最近、とみに故郷のことを思い出します。小学生時代に祖父母や母と険しい場所にある茶畑に行き茶葉を刈り、背負い籠で運ぶ。苗代に入っては苗を取り、田植えし、草取り、刈入れ、脱穀、藁を茶畑に運んだり・・・きつい仕事だったけどサボって手抜きはしなかった(ように思っている)。爺さん子でいつもやさしい爺さんと一緒にお盆の飾りつけや田んぼの神様にお供え物を用意したり・・・怒られもしながらいろいろ教えてもらったものです。婆さんは実兄ばかり可愛がっていたせいか婆さんとの思い出は全然思い出せません(笑)。3人ともあの世で暮らしていますので、この7月盆には久しぶりに墓参りして会ってこようかと殊勝なことを考えています。

➤さて、我が社は次の50年に向かっていきます。「顧客の創造をとおして、永続的に発展し、社会に貢献する」ことが会社の使命だと考えています。過去があって、今があり、未来があります。時代、時代に会社に関わりをもって生きた、生きている、生きていこう人々がいます。会社は継続することが大事です。これからも多くの困難が待ち構えていることではありますが経営理念を基に発展していくことを望んでいます。これからの時代を担う社員諸君には是非とも『不易流行』、『温故知新』も念頭におき、諸事進めていただきたいと願っています。この二つは多くの経営者などが座右の銘として挙げているポピュラーなワードです。分かりやすいようにもの本に書いてある解説を交えて紹介します。

#### 【不易流行(ふえきりゅうこう)】

俳聖・松尾芭蕉が“奥の細道”の旅の中で見出した蕉風俳諧の理念の一つとされる。“不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず”時代が変わったのに古くからの法則や方法に縛られていると国や会社などは衰退してしまうし、変えてはいけない部分を変えてしまうとあつと言う間に組織などは滅びてしまう。利益優先のために、食品の偽装表示などをして摘発された食品会社などは、食に携わる者としての不易の部分蔑ろにしたため、あるいは変化に「風雅の誠」となる部分を欠いていたために潰れたと言えるでしょう。

#### 【温故知新(おんこちしん)】(論語の一節で孔子曰く)

「温故知新」の意味は、昔のことをよく調べ、そこから新しい見解や知識を得ること。前に学んだことや昔の事柄をもう一度調べたり考えたりして新しい道理や知識を見出し自分のものとする。新しいものを生み出すためには、これまでの歴史や知恵、慣習などを学ばなければいけないということです。

「不易流行」も「温故知新」も「昔も今も大切だ」という観点では同一の意味合いがあります。これらの違いですが、最先端であるために過去に重きをおくのが「温故知新」で、古くからある本質的なものを守るために新しいものに重きをおくのが「不易流行」です。つまり、どちらも注力の仕方が逆です。いずれにしても、「旧識を疑う、新たな時代を創出する、常識を打ち破る」のような風潮が強くなると、昔からある失ってはならないものも、一緒に捨て去られてしまう危険性も増します。

何だか分かったような分からないような解説ですが“味”がありますね。我が社も振り返ってみると表面的には何も変わっていないように見えますが、実は大いに変化し続けています。そうでなければとっくの昔に潰れているでしょう。今後は更に「不易流行」、「温故知新」を強く意識して、ことに当たっていただきたいと思えます。

#### ➤『失敗は大事なこと!』の一つの意味

例えば、本設計に入る前に「あーでもない、こーでもない」と意見を出し合い決定する。この決定だけが図面に表現されると「あーでもない、こーでもない」が見えてこない、隠れてしまう。このことはとても勿体ないことだと思います。失敗した時には原因を探り、再発防止に繋がります。ここには「あーでもない、こーでもない」が少しであっても記録されます。肝に銘じてほしい仕事です。